

中ノ堂一信著

『中世勸進の研究』

——その形成と展開——

「勸進」とは「人を勧めて仏道に入らせ、善根・功德を積ませること」（中村元『仏教語大辞典』）であり、仏教における教化活動を指すのが原義である。しかし中世以降になると、社寺造営や仏像建立のための募財行為を指す言葉としても用いられるようになり、またその名目のもとに種々の芸能興行が催されるようになる。本書はそのような勸進について、著者が一九七〇年から八〇年にかけて発表した五本の論考を収録したものである。

そもそも勸進に関する研究は、民俗学において柳田國男氏以来の蓄積があるが、ここでは勸進聖が如何に庶民信仰を伝播したか、この点を解明することに焦点があった。それに対して中ノ堂氏の研究は、勸進そのものの史的推移を追ったものであり、歴史学における勸進研究の嚆矢といえる。現在も勸進に関する論文では最初に引用される先行研究であり、それらが一書に纏められ

たことの意義は大きい。

それ故、本書の内容は既に多くの研究者の目に触れたものであるが、簡単に概要を紹介しておく。第一章「中世的『勸進』の形成過程」では、大勸進職に任命された勸進聖が、寺家から事業を全面的に請け負って行う勸進を中世的「勸進」とし、重源による東大寺再興事業をその画期とする。第二章「東大寺大勸進職の成立」では、寺家による重源の大勸進職任命を建久八年に想定し、そこに至るまでの重源像、及び勸進聖の集団組織について考察する。第三章「中世的『勸進』の展開」では、中世における勸進の形態を①巡歴型勸進、②幕府依存型勸進、③朝廷助成型勸進、④興行型勸進とし、鎌倉期から室町期に至る勸進の展開を②③から④への変化に見る。第四章「中世の勸進と三昧聖」では、死後追善を担う三昧聖と勸進との関係から、中世において勸進が盛行した背景に穢から清浄への回復を願う中世人の精神構造があったとし、第五章「勸進と興行——勸進の近世的展開」では、勸進の宗教的側面が風化し、演能のための名目となる点を勸進の近世的展開とする。

さて、奇しくも中ノ堂氏の研究が発表された同時期に、黒田俊雄氏により顕密体制論が提唱され、中世仏教史研究は寺院社会を研究対象とする方向に大きく舵を切った。その結果、顕密寺院・地方寺院の堂塔修理・維持が問題となり、勸進に関する研究は一気に花開くことになる。その一つの成果は、「無縁」性から様々な神社の大勸進職に補任され、造営事業を請け負った鎌倉中期以降の禅僧侶に関する研究であり、また戦国から江戸初期に伽藍再建を担った本願についても、中近世移行期における寺社勢力の変化を示すものとして議論されている。まさに「中世勸進」の研究は、中ノ堂氏の研究を継承しつつ、質量ともに深化したと言えるだろう。但しその一方で、「勸進」の本義である「教化」の内容や対象、そこから生じる「信仰」といった宗教的側面については、議論が深められていたとは言い難い。民俗学の成果として示されてきた民間信仰の伝播に勸進がどのような役割を果たしたのか、雨乞祈禱・虫送り祈願など堂塔修理・維持に収斂されない勸進聖の活動をどのように評価するのかなど、本書の刊行を契機として再び「中世勸進」の特

質が問い直されることが期待される。

(四六判 二二九頁 二〇一二年二月)

法蔵館 税別一六〇〇円)

(坪井剛 京都造形芸術大学非常勤講師)

受贈誌

(二〇一三年一〇月二二日)

二〇一三年二月一九日)

日本史研究 (日本史研究会) 六一四

国家學會雑誌 (国家学会事務所) 一二六一

九・一〇

美術研究 (東京文化財研究所) 四一〇

アジア研究所所報 (亜細亜大学アジア研究所)

所) 一五二

日本歴史 (日本歴史学会) 七八六

信濃 (信濃史学会) 六五一一〇

岐阜経済大学論集 (岐阜経済大学学会) 四

七一一

三康文化研究所所報 (三康文化研究所) 四

八

立命館法學 (立命館大学法学会) 三四九

経済研究 (一橋大学経済研究所) 六四一四

中央研究院 歴史語言研究所集刊 (中央研

究院歴史語言研究所) 八四一三

神道宗教 (神道宗教学会) 二二〇〇

神道宗教 (神道宗教学会) 二二二一

龍谷大学佛教文化研究所紀要 (龍谷大学佛

教文化研究所) 五一

日本研究 国際日本文化研究センター紀要

(国際日本文化研究センター) 四八

史學雑誌 (史學會 (東京大学文学部内))

一二二一〇

歴史 (東北史学会) 一二二一

日本史研究 (日本史研究会) 六一五

信濃 (信濃史学会) 六五一一一

立命館産業社会論集 (立命館産業社会学

会) 四九一一

海事史研究 (日本海事史学会) 七〇

立命館史學 (立命館史学会) 三四

社会経済史学 (社会経済史学会) 七九一三

東北学院大学論集 歴史と文化 (東北学院

大学学術研究会) 五一

経済論究 (九州大学大学院経済学会) 一四

七

文化史學 (文化史学会) 六九

史迹と美術 (史迹美術同致会) 八三九

日本歴史 (日本歴史学会) 七八七

考古学報 (中国社会科学考古学研究所) 二

〇一三一四

駿台史學 (駿台史学会) 一四九

CHRONOS クロノス (京都橋大学女性歴

史文化研究所) VOL.三三

人文地理 (人文地理学会) 六五―五

編集後記

九七巻二号をお届けいたします。本号にも優れた論説、書評、紹介が集まりました。年度の変わり目でご多忙かとは思いますが、ぜひご味読ください。(小野容照)

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakutenkyukai.jp/index.html>

二〇一四年三月二五日印刷
二〇一四年三月二二日発行

史 林 第九七巻第二号 (通巻第五〇四号)

京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科内

電話 (〇七五) 七五三・二七八七

FAX (〇七五) 七五三・二七八七

発行人 史 学 研 究 会

振替京都 〇〇七〇二一五五番

理事長 上 原 真 人

印刷所 中村印刷株式会社